

オンライン授業編①(日本でのホテルアパート生活)

忘れもしない3月31日(火)午後、コロナウィルス感染拡大により全世界ほとんどの国が、感染症危険情報レベル3へ。レベル3は渡航中止勧告です。これにより、出発1週間前にして赴任延期が決まりました。韓国はビザなしで渡航ができるはずでしたが、3月8日からビザが必要になり、この手続きも。渡航延期なのに、4月初めには韓国大使館から確認の電話が来て、無事に??ビザが発行されることになった。



(ソウル日本人学校への赴任延期に！)

当初の赴任は**4月7日(火) JL0091便、羽田08:25発→ソウル金浦空港10:45着**
その便から、**4月7日(火) JL8951便、成田12:30発→ソウル仁川空港15:00着**
に変更。3月27日(金)夕方、阪急トラベルからメールをもらう。出発が羽田から成田へ、到着も市内に近い金浦から郊外の仁川に変更になったのです。しかし、それもつかの間、結局変更したこの便にも搭乗することは叶わなかったのです。

このわずかな期間で、前泊、前前泊のホテルを羽田から成田へ変更し、そして成田も結局キャンセルということになったのです。実は、4月からはすでに、知り合いの若い先生に自宅を貸していたため、入居日を4月4日(土)にしてもらい、4日に越後湯沢、5、6日と前泊のため成田のホテルを予約していました。仕方がないので、もちろん成田はキャンセル、5日は私の誕生日ということで、湯沢のホテルは宿泊することにしました。本当は新幹線で行くはずでしたが、ぎりぎり売らなくて済んだ妻の車で向かいました。(私の車はすでに3月29日売却していたのです)

湯沢に宿泊しながら、今後のことを考えました。この時点でまったくこの後の予定が分からず、今後のことを考えようにもどうしたらいいのか見当もつきませんでした。とにかく、家がない。車は何とか妻の軽自動車が残ったのですが1台である。このあと様々な不便さが出てくるのが予想できました。

まず、湯沢から自宅に戻ると後輩がまだ入居していない。自宅を貸したとはいえ、実は1階だけの契約で、2階には所狭しと我々夫婦の荷物が押し込められていました。電話をして今後のことを相談。ちょうど赤ちゃんが年度末に生まれたこともあり、新潟の実家から通うことができるということで、契約を5月からにしてもらい、5月の連休明けまで、住むことができるようになったのです。心の中では、『きっと、1か月もすればコロナも落ち着いて渡航できる…』と安易な気持ちでした。ところが、4月半ばを過ぎてても目途が立たない。結局連休明けからレオパレス21生活に…。

このレオパレス21、4月終わりに契約したのですが、予定通り連休明けから入居することができず、5月14日からの入居となり、連休明けから入居日まで、ホテルに4泊5日することに。空いているのにどうということだ！今後もこのようなハプニングが多々続くような気がしてきたのです。レオパレスは1か月契約で借り、退去日は6月12日、そのころになればさすがにもう目途がつくのではと考えていました。

4月は、現任校へ行って少しお手伝いをしたり、様々な手続きをしたりソウルとのzoomによる会議も始まりました。ソウルとの職員会議をはじめ、オンライン授業開始に向けての打ち合わせ等準備で忙しくなっていたのです。4月23日（木）始業式をオンラインで実施。そこで担任の発表があり、4年松組という紹介とともに、子どもたちに向けてオンラインであいさつをしました。次の日の金曜日には、初めてのオンライン授業を開始。連休明けまで、我が家2階からオンライン授業に加わりました。

レオパレス21に入って1か月弱、6月になってもまったく渡航の目途が立たず、仕方なく、契約延長のため不動産屋へ。しかし……。「もう次に入る人が決まっていますので、6月12日には退去お願いします」との返事。「ガーン」。それはないよ。まだ契約満了まで10日もあるのに…。もし、次の人が入りそうなら、「どうしますか？」くらい聞いてくれてもいいのに…。何てぶつぶつ言いながら、仕方なく次の住居を考えました。結局連休明けに泊ったホテル（アパ villa ホテル）をもう一度、6月いっぱい（18泊19日）借りることにしたのです。忘れないために金額を記すと、18泊19日で105,682円。7月になってもまだどうにもならなければ、また考えることにして、とりあえず6月の後半はホテル生活にすることにしました。

この間も、4月から韓国の誰もいない新しい宿は主がいないまま、さみしく空き家になっていました。契約通り賃貸支払いが始まり、こちらの家賃も気になっていました。家具も3年間住むので、少し良いものをすでに買い揃えていて、特にソファは少し贅沢にカウチに。夫婦二人の中では「幻のカウチ」呼んでいました。



（このカウチにゆったり座れたのは、赴任した7月2日夜10時過ぎのことでした）

4月23日の始業式を皮切りに、日本とソウルをつないでオンライン授業が始まり、教師生活初めての体験に、毎日緊張でストレスマックスになっていたのです。